主な記事
節電アクション今夏も 2
学生の案聞き活性化へ 3
七夕さまにお願い 4

Shoten-gai NEWS
商店街ニュースN
第1187号
（令和５年）2023年8月5日
（毎月５日発行）
発行所 東京都商店街振興組合連合会
〒104-0061 東京都中央区銀座2-10-18
電話 03－3542－0231～5
FAX 03－3542－0236
URL http://www.toshinren.or.jp/
購読料 年間2,500円［送料込み、会費に含む］

やってますかＨＴＴ

こまめに消灯、省エネモードなど

本格的な夏を前に６月29日、小池百合子知事を会長とする第３回「ＨＴＴ・ゼロエミッション推進協議会」が都庁で開かれた。

都民にも事業者にも「電力をＨ（へらす）・Ｔ（つくる）・Ｔ（ためる）」の取り組みを促すもので東京都商店街振興組合連合会の山田昇理事長も出席した。

協議会は、こまめな消灯やＬＥＤへの交換、ＰＣやコピー機の省エネモード、クールビズファッションなど例を挙げ「やってますか？　ＨＴＴ」という共同メッセージを発信した。

小池知事は「コロナ５類移行で街も動き始めている。経済の活性化と脱炭素化を両立したい」などと話し、この夏はより具体的なアクションを求めたい」と訴えた（写真＝配信画面）。

９月30日までを「夏のＨＴＴ推進期間」として取り組みを求めるほか、「ＨＴＴ取組推進宣言企業」の登録制度を設け、優良企業の表彰や事例紹介もする予定だ。

都 有識者会議

人材育成など課題に

「女性・青年部にも支援を」

東京の中小企業振興を考える有識者会議（座長＝鵜飼信一・早稲田大学名誉教授）の2023年度第1回会合が7月12日、都庁で開かれた。コロナ禍やエネルギー・原材料価格高騰を経て中小企業の環境がどうなっているか現状を確認し、検討課題を2024年度の都予算や施策に生かそうと話し合った。

出席した小池百合子知事は冒頭、「人材確保や人材育成、働き方改革など、いっぺんに課題が押し寄せ複雑になっているが、答えを出していかなければならない」などと語った。

都が中小企業振興ビジョンを策定したのはコロナ禍前、2019年1月のこと。

商店街に関しては、地域社会で商店街が住民生活を支えるための支援を重視した。その後情勢に合わせ「キャッシュレス化の推進」「新しい日常への対応」など変化させ、コロナの影響はプラス面もあったとしている。

都は、中小企業の現状を「人手不足が深刻だが賃上げできる企業は少ない」「ゼロゼロ融資の返済等により倒産件数が3年ぶりに増加」などと分析。

商店街を巡っては、都の実態調査で「後継者不足」が問題だと回答した商店街の割合が2022年は70％に上り、年々増加していることを挙げ、後継者や若手育成への支援が課題だとしている。

有識者会議発足時（5年前）から委員を務める桑島俊彦・東京都商店街振興組合連合会最高顧問は「やっと商店街でイベントを再開できるが、アルバイトが集まらない。運営側は人員不足、年齢も重ねており、以前の規模でやれない所が増えている」と報告。

「後継者不足と若手育成はずっと指摘されてきた問題で、若手研修会の開催や女性部・青年部への支援など、抜本的な対策が必要」だと検討を求めた。

都内の勤務者を調査へ

都振連 2023年度事業

商店街でＤＸどう活用

東京都商店街振興組合連合会は2023年度の調査研究事業で、都内の商店街勤務者を対象に、ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の認識や現状を尋ねるアンケートを実施する。

7月4日に調査委員会を開き、商店街勤務者がＤＸをどのように活用できればいいとイメージしているのか、導入するなら何が課題だと考えているのか、など把握しようとの方針を決めた。

ＤＸとは、デジタル技術を生かして人々の生活をより豊かに便利に、変化させることを意味する。

調査では、まず「ＤＸという言葉を聞いたことがあるか」「意味も知っているか」を質問。認知度を調べる。

また聞いたことがないという人も含め、ＤＸとはデジタル技術による変革だと説明したうえで、「これからの商店街運営にとってＤＸの導入・活用が必要と思うか」を尋ねる。

さらに、ＤＸで「実現できたらよいと思うこと」と「ヒト・モノ・カネが揃うなら実施してみたいと思うこと」は何か――。

例えば、「ＡＩによる人流調査」「運営効率化による役員の担い手不足の解消」「新規加入の促進による活動人員確保」「高齢化による後継者不足の解消や事業承継」などの項目から選択してもらい、どういうものが優先度高くイメージされているのか、具体像を探る。

導入にあたり課題となることは何かについても、「具体例をイメージできない」「詳しい人がいない」「ＩＴやデジタルは苦手」「費用負担が難しい」などの項目の中から選んでもらう。

当日の会合では、会員へのチラシ配布を電子回覧板に変え大幅に役員の労力が減った例などが話題に上るとともに、「商店街ではイベントを開催するにも役員を継承するにも人手不足。こうした深刻な商店街問題にＤＸをどう活用できるか、調査を通じイメージできるようになれば」などの意見が出た。

今後、ネットでアンケートを行い、年内にも結果をまとめる。回答者の業種別にクロス集計もする予定だ。

なお、この調査委員会の委員は、いずれも都振連の後継者養成研修事業「商店街大学」を修了した各地のメンバーたちが務めている（写真）。

デジタル化へ補助

31日まで 商店街 追加で募る

東京都が、「商店街デジタル化推進事業」の補助を受けたい商店街（または商店街の連合会）を追加で募集している。

商店街で一体的にキャッシュレス決済を導入する、商店街アプリを開発する、オンラインショップを構築する、会員間の連絡手段をデジタル化する、といった取り組みが対象になる。

「デジタル化に取り組んでいる商店街」だという広報・ＰＲも補助対象で、導入からその後のサポートまで想定している。

具体的には、専門家から支援を受けるための謝金や委託料、キャッシュレス端末やデジタル機器の購入費、ソフトの開発費、会員店舗向けに実施する操作研修サポート費などに対して10分の9以内（限度額1000万円）の補助がある。

募集期間は8月31日まで。

申請書類などは都産業労働局ホームページ（ＱＲコード）から入手する。

中野区のランドマーク「中野サンプラザ」が7月2日に閉館したことを受け、同施設への感謝と、周辺地区の再開発による新しい街づくりのためにと、盆踊りの参加人数でギネス世界記録に挑戦する「リボーン中野」が17日、中野駅前大盆踊り大会実行委員会の主催で行われた。

中野のランドマーク

サンプラザに感謝

盆踊りでギネスに挑む

挑むは、2017年に大阪府の八尾河内音頭まつりが打ち立てた2872人超え。中野四季の森公園北側直線道路の約400㍍を車両通行止めにし、げた・草履に浴衣姿で「東京音頭」を5分以上、間違わずに踊る。

午後7時頃、公式認定員とチェック係が見守る中、スタート。参加者たちは、「ハァ～踊り踊るなら」というおなじみの歌と生演奏で、そろった振り付けで5分以上見事に踊りきった（写真）。

しかし結果は参加者が2866人で、惜しくも新記録成立はならずだった。

ギネス挑戦イベントは15日から3日間開催の「さよなら中野サンプラザ感謝祭」の一環。

ホールでコンサートがある日は近隣の飲食店に観客が流れて来たり、〝お隣り〟の中野サンモールでは公演する歌手の音楽を流したりなど、サンプラザと共に歩んできた日々に感謝を込め、商店街も特大のフラッグを掛けて盛り上げた。

各区市振連・区市商連会員様

お願い

商店街（会）の新聞送付先の変更（理事長・会長の交代など）があった場合は下記までご一報ください

東京都商店街振興組合連合会　広報課
Fax：03-3542-0236　または
Mail：news@toshinren.or.jp

令和5年度 商店街ステップアップ応援事業

TOSHINREN-information

専門家を派遣して

商店街の活性化サポートします！

派遣費用 無料

たとえば
下記のような相談に対して
支援・アドバイスいたします

支援のながれ

お申し込み（WEBにてご案内）▶ 事前打ち合わせ ▶ 日程調整 専門家手配 ▶ 専門家による支援の実施

専門家の派遣は一つの相談に対して原則５回、最大10回までです。

- 売上アップやにぎわい増につながるイベント
- 商店街の会計処理・補助金などの資金周り
- キャッシュレス・ホームページ導入など IT化
- 多言語化・おもてなしなどインバウンド対応
- 障がい者・高齢者用サイン表示や休憩スペースの設置
- 加入促進・若手の活躍など組織運営
- 商店街の中長期的なありかた・ビジョン
- 来街者に安心・安全な商店街づくり
- 地域と連携した、街の活性化への景観づくり
- 再エネ・省エネ

随時受け付け中 ➡ 東京都商店街振興組合連合会／ステップアップ事務局 ☎03-3547-3787